



コーヒー飲料への支出



一家計調査（二人以上の世帯・単身世帯）結果より

寒さも一段と増し、温かくておいしいコーヒーが飲みたくなる方も多いと思います。特に最近では、挽きたて淹れたての味と香りを手軽に楽しめるコンビニコーヒーなどへの人気が高まり、日常的に購入するようになったという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、今回はコーヒー飲料^{※1}への支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

※1 家計調査では、コーヒーを主原料とした液体飲料を「コーヒー飲料」としています。喫茶店やレストランなどの飲食店で購入された場合は含まれません。

最近支出が増加しているコーヒー飲料

1世帯当たりのコーヒー飲料への月別支出金額を対前年同月増減率で見ると、平成25年3月以降、増加していることがわかります。これは、昨年ヒット商品としても名前が挙がるなど、コンビニコーヒーへの人気が高まったことが影響しているのではないかと考えられます（図1）。

男性の支出が多いコーヒー飲料

単身世帯のコーヒー飲料への年間支出金額（平成22～24年平均）を男女年齢階級別に見てみると、いずれの年齢階級でも女性より男性の支出が多いことがわかります。特に、男性で最も年間支出金額が多かった35～59歳の階級は14,579円で、同年齢階級の女性（3,154円）の約4.6倍となっています。

一方、コーヒー^{※2}への支出について見ると、いずれの年齢階級でも女性の方が男性に比べて支出が多く、女性は男性に比べて、自分でコーヒーを入れて飲むことが多いとみられます（図2）。

※2 家計調査では、レギュラーコーヒー（豆、粉など）、インスタントコーヒーなど液体以外を「コーヒー」としています。

図1 コーヒー飲料の月別支出金額の対前年同月増減率（二人以上の世帯・平成24年11月～25年10月）

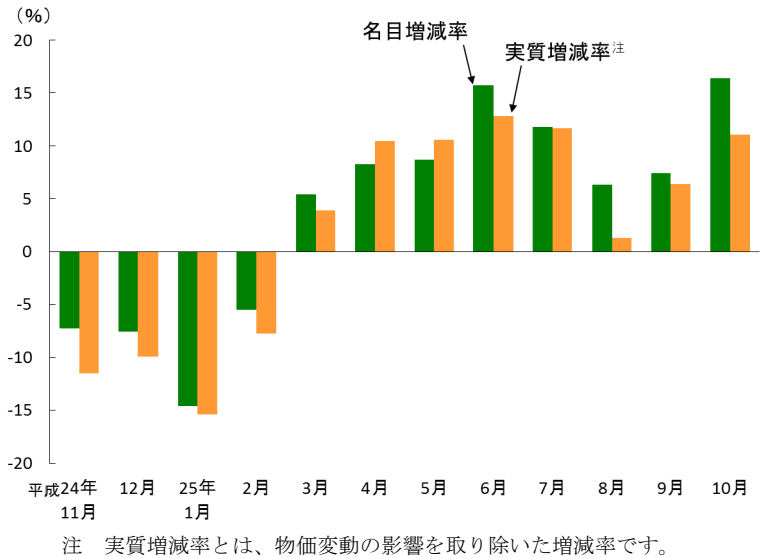


図2 コーヒー飲料及びコーヒーの男女年齢階級別年間支出金額（単身世帯・平成22～24年平均）

